

統合的リスク管理態勢について

顧客ニーズの多様化や金融の自由化・国際化の進展等により、金融機関を取り巻くリスクは一段と多様化・複雑化しています。このような環境下において、**たしん**ではリスク管理を経営上の最重要課題と位置付け、当金庫の保有するリスクについて、リスクカテゴリー毎に評価したリスクを総体的に捉え、金庫の経営体力（自己資本）と比較・参照することによって、リスク管理を行う『統合的リスク管理態勢』を構築しています。

そして、経営の健全性の確保と収益性の向上を図る観点から、統合的リスク管理態勢の更なる強化・充実に取り組んでいます。

信用リスク管理

信用リスクとは、取引先の経営・財務状況の悪化により、貸出金などの元本や利息の回収が困難となって、損失を被るリスクのことをいいます。**たしん**では、貸出資産の健全性を維持・向上させるために、事業支援部は営業店と連携し、取引先の経営状況の改善のためのサポートを実施しています。また、融資部においては、厳格な貸出審査態勢と随時自己査定態勢を構築することで、より効率的かつ効果的なリスク管理に努めています。そして、貸出資産の査定については、取引先の実態を踏まえ、正確な自己査定を実施して、資産の分類、適正な償却・引当を行っています。さらに研修等を通じ、職員の与判断能力・経営改善支援能力等の強化を図っています。

市場リスク管理

市場リスクとは、金利、株式や投資信託等の価格、為替等の様々な市場のリスク要素の変動により、保有する資産・負債の価値が変動し損失を被るリスク、資産・負債から生み出される収益が変動し損失を被るリスクのことをいいます。

たしんでは、市場リスクを「預金・貸出金の金利リスク」「預け金・有価証券の金利リスク」「価格変動リスク」「為替リスク」に区分し、担当部署を置いて管理しています。また、ALM委員会を定期的開催し、これらのリスクに適切に対応するように努めています。

- ・「**預金・貸出金の金利リスク**」「**預け金・有価証券の金利リスク**」とは、市場金利の変動により、資産・負債（預金・貸出金・預け金・有価証券等）の価値や将来収益が変動し、損失を被るリスクのことです。
- ・「**価格変動リスク**」とは、有価証券等の価格の変動に伴い、資産価格が減少するリスクのことです。
- ・「**為替リスク**」とは、為替相場の変動により、外貨建資産・負債の価値が当初予定されていた価格と相違することで損失が生じるリスクのことです。

流動性リスク管理

流動性リスクとは、市場の混乱等により市場において取引ができなかったり、通常よりも著しく不利な価格での取引を余儀なくされることにより損失を被るリスク（市場流動性リスク）と、運用と調達の間 mismatches や予期せぬ資金流出等により必要な資金が確保できなくなり、資金繰りがつかなくなる場合や、資金の確保に通常よりも著しく高い金利での資金調達を余儀なくされることにより損失を被るリスク（資金繰りリスク）のことをいいます。

たしんでは、ALM委員会を定期的開催し、これらのリスクに適切に対応するように努めています。

オペレーショナル・リスク管理

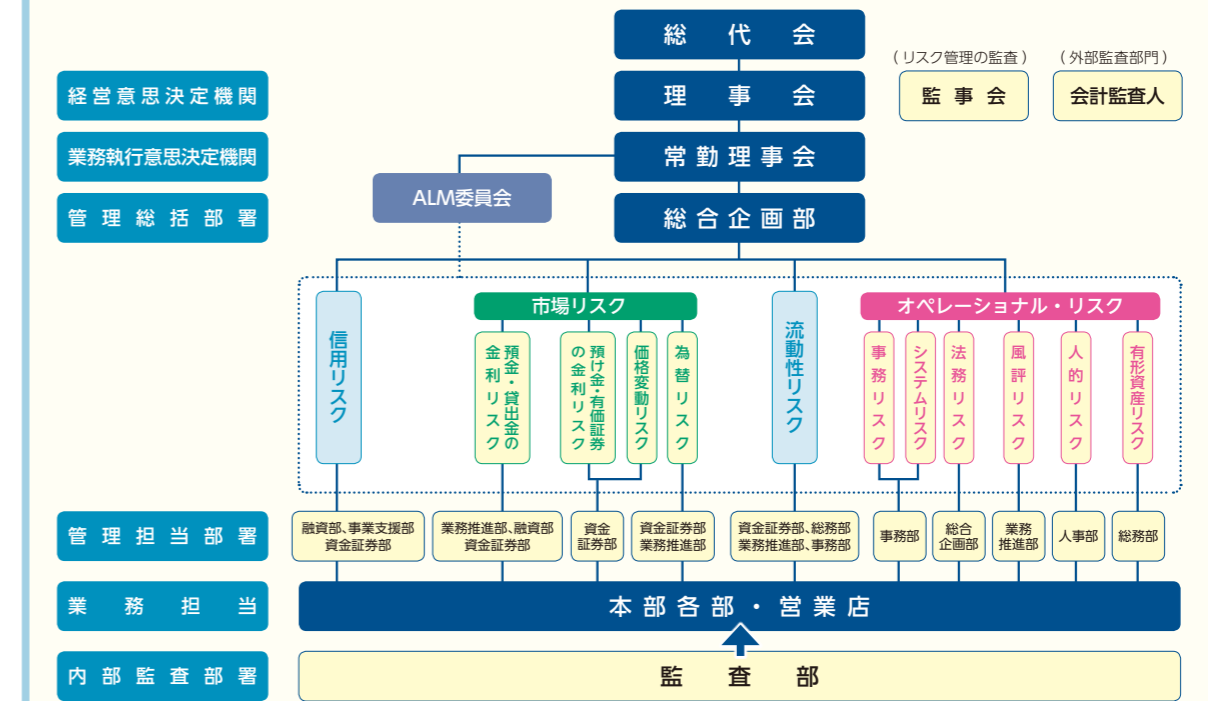
オペレーショナル・リスクとは、業務遂行上の過程において、内部プロセス、人、システムが不適切もしくは機能しないこと、または外発的な事象により、損失を被るリスクのことをいいます。

たしんでは、下記の項目について、オペレーショナル・リスク管理態勢を構築しております。

- 事務リスク**
事務リスクとは、業務上の事務ミスや不正により損失を被るリスクのことです。**たしん**では、事務に関する規則等を整備して研修・指導等を通じ職員の事務能力の向上を図ることにより、正確な事務処理の徹底と不正行為の発生防止に努めています。また、監査部による立入検査を実施して内部牽制を図るとともに、店内でも相互牽制と事務ミスの早期発見のため定期的に店内検査を行っています。
- システムリスク**
システムリスクとは、コンピュータシステムの停止・誤作動や不正使用、さらにはサイバー攻撃等の発生により損失を被るリスクのことです。**たしん**では、一般社団法人しんさん共同センターへ加盟し、オンラインシステムの運用を委託しております。同センターはコンピュータ・通信回線の二重化およびバックアップセンターの設置等により、大規模災害等の不測の事態に備えて万全の態勢を構築しています。また、当金庫の情報資産について各種規程・取扱要領等を制定し、厳正な情報管理を行う等、十分な管理態勢を構築しています。
- 法務リスク**
法務リスクとは、金融機関の経営や顧客とのお取引等において、法令や内部規程等に違反する行為ならびにその恐れのある行為（コンプライアンス違反行為）が発生し、金融機関の信用失墜や法的な責任追及を受けることにより、損失を被るリスクのことです。**たしん**では、コンプライアンス態勢の整備を行い、遵法精神の醸成に努めるとともに、各種業務における法務リスクの検証と適切な管理により、損害の未然防止、極小化を図り、信用の維持・確保に努めています。
- 風評リスク**
風評リスクとは、インターネット掲示板や電子メール、SNS等による根拠のないうわさの流布やマスコミ報道、市場関係者の評判、業務上のトラブル等、様々な要因から金融機関に対する評判が悪化し、有形無形の損失を被るリスクのことです。**たしん**では、「地域になくなくてはならない金融機関」とお客様に感じていただけるよう、常日頃から役職員が日常業務や地域との関わりを通じて、お客様との強い信頼関係の構築に励んでいます。さらにディスクロージャー誌等により透明度の高い情報開示を積極的に行い、当金庫の経営の健全性を広くお客様に伝達するとともに、常に公共報道やインターネット等を利用した風評情報によるお客様動向の変化を注視するなど、モニタリングの実施にも力を入れています。また、イメージ向上に向け、Facebookページの運営など積極的な広報活動も展開しています。
- 人的リスク**
人的リスクとは、職員による不適切な行為、人事運営上の不公平・不公正・差別的行為（セクシャルハラスメント・パワーハラスメント等）、労働災害およびメンタルヘルス不全等から生じる損失・損害等を被るリスクのことです。**たしん**では、職員の安全衛生を確保し、公平かつ透明性の高い人事制度の運用を行うべく日々取り組みを行っており、今後も法改正、社会的要請に適切に対応し、より一層の態勢整備に努めます。
- 有形資産リスク**
有形資産リスクとは、災害その他の事象から生じる有形資産の毀損・損害などにより、損失を被るリスクのことです。**たしん**では、防犯訓練に加え、地震災害等によりオンラインシステムが稼働しない場合を想定して、業務継続計画に基づく訓練を実施し、災害等に備えた態勢強化に努めています。

統合的リスク管理の態勢図

(令和4年6月末現在)



統合的リスク管理のリスク量算出方法

- 信用リスク**
①個別先の与信残高・デフォルト率・未保全率を基に、モンテカルロシミュレーション法を用いて、99%の信頼度の下で、今後1年間に発生しうる最大損失額。
②破綻懸念先以下を対象に、未保全額から貸倒引当金額を控除し、地価下落による想定二次ロス額を加算した額。
上記の①と②の合算値を当金庫が保有する貸出金の信用リスク量としています。
- 市場リスク**
過去1年間の市場の動向（金利・為替・株価等の変動）を基に、分散共分散法を用いて、99%の信頼度で当金庫が保有する有価証券等が今後1年間にもたらすと想定される最大損失額と、有価証券の評価損と売却損益の合算値を市場リスク量としています。
- オペレーショナル・リスク**
基礎的手法をリスクの算出方法として採用しており、過去3年間の業務粗利益の平均値の15%をオペレーショナル・リスク量としています。

統合リスク量

(令和4年3月末)

（各リスク量）	（単位：百万円）	（資本配賦内訳）	（単位：百万円）
統合リスク量	16,921	自己資本	42,204
信用リスク量	4,394	留保原資*	7,448
市場リスク量	11,787	予備原資*	3,724
オペレーショナル・リスク量	740	割当原資*	31,032

上図のとおり、令和4年3月末時点での統合リスク量は16,921百万円となっています。この統合リスク量は、当金庫の経営体力である自己資本のうち、留保原資と予備原資を除いた割当原資31,032百万円の値よりも十分小さいことから、万一、当金庫の抱えているリスクが顕在化しても経営に大きな影響を与えないことが確認できます。また、信用リスク・市場リスクについては、上記とは別にストレステストも実施することで、ポートフォリオの特性の把握や自己資本の十分性の確認を行っています。

*留保原資とは自己資本のうち、自己資本比率4%を維持するために必要な自己資本額です。
予備原資とは自己資本のうち、信用リスク、市場リスク、オペレーショナル・リスク以外のリスクに対する備えです。
割当原資とは自己資本のうち、信用リスク、市場リスク、オペレーショナル・リスクの各リスクを引き受けるための原資です。